



# 「学ぶ土台づくり」便り

第9号



宮城県では、幼児教育の充実を目指し、ルルブル同様、社会総がかりで次世代を育てる幼児教育を展開するため、「学ぶ土台づくり」を進めています。

**新幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 施行（平成30年4月）まであとわずか！**



平成29年4月に幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が揃って告示となり、施行まであと2か月を切りました。この一年、どの園・所でも新要領・指針の読み合わせや次年度に向けて準備をしてきたことと思います。

今回の改訂・改定では保育内容の5領域は全ての幼稚園・保育所・認定こども園の3歳以上について同一のものが指導されることとなりました。「学ぶ土台づくり」では、小学校に就学前の全ての子供たちに対して、どの家庭どの地域、そしてどの教育現場でも、充実した幼児教育が行われることを目指してきました。現在策定中の第3期「学ぶ土台づくり」推進計画においても、今回の改訂・改定を踏まえた取組等が追加される予定です。

この機会に、幼児教育の大切さを改めて見直し、大切なことを家庭や地域社会等へ発信できればよいですね。県教育委員会でも幼児教育の普及啓発に一層取り組んでいきたいと思っています。

## 「遊び」は重要な学習です

幼稚園は、遊びを大切にしている教育を行っています。

この時期に思い切り遊ぶことで、その後の学びや創造性が豊かになるといわれています。

このため、幼稚園では、小学校以降の教育と異なり、教科書を使わず、「遊び」中心の活動を行っています。これらの「遊び」は、「国語」や「算数」などと同じように子供の将来にとって重要な学習なのです。

## 小学校以降の学習の基盤は幼稚園で作られます

幼稚園の「遊び」と小学校の「国語」や「算数」などは、一見何のつながりもないように見えるかもしれませんが。

しかし、子供は、幼稚園で様々な遊びを通して、うまく人とかかわれるようになったり、言葉が豊かになったり、自然の美しさや不思議さなどに気付いたりすることで、小学校以降の学習の基盤をつくっているのです。【文部科学省HP「幼稚園ってなあに？」より】

改訂・改定のキーワードは「**学び**」

遊びの中に「**学び**」があることを家庭に地域に発信していきましょう!!

## 遊びには様々な学びが隠れています



## 「学ぶ土台づくり」自然体験活動

幼児期は、人とのかかわりや遊びを中心とした体験活動を通して、道徳性や社会性、自発的な行動など、社会生活を営んでいく上での原点となるものを獲得していく大切な時期です。

宮城県立自然の家（志津川、松島、蔵王）では、幼児（親子）を対象とした体験活動の催しの充実を図っています。また、国立花山青少年自然の家では、幼稚園や保育所等と連携を図りながら運動プログラムの開発・普及の取組を行っています。

各施設のホームページ等をぜひ見てください。



担当：宮城県教育庁教育企画室

TEL：(022)211-3616 FAX：(022)211-3699

検索

学ぶ土台づくり

Email：[kyoikupp@pref.miyagi.lg.jp](mailto:kyoikupp@pref.miyagi.lg.jp)

URL：<http://www.pref.miyagi.jp/site/manabudodai/>